



News Letter no. 24

ニュース・レター

日本図書館協会児童青少年委員会 2020. 10.16

ISSN 2188-6067

シリーズ 児童図書館員養成専門講座のこれからを考える 第1回

2020年第40回児童図書館員養成専門講座の開催に向け、児童青少年委員会では、昨年から準備を進めてまいりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症が拡大するなか、私たちはやむなく今年度の専門講座を中止としました。そこで、私たちは今年を、39年間行ってきたこの専門講座について立ち止まって考える機会と位置付けました。

このシリーズは2013年から2019年に受講された方に

- 1 専門講座の思い出
- 2 今、何をされているか
- 3 今年度予定していた講座内容をみて感想や提案をまとめて頂きました。

シリーズ第1回目は7人の方の文章を掲載します。

提案では、

- ・新しい生活様式が求められるなか、非対面の児童サービスの事例や課題を講座のなかに組み込んだらどうか。
 - ・コロナ禍のなか、専門講座のオンライン化は考えられないか。育児や介護、遠方の人なども参加できるのではないか。
 - ・各自治体の子ども読書活動推進の取組みを知りたい。
 - ・紙芝居のことを講座に入れたらどうか。
 - ・カリキュラムは変えない方がよい。
- などの提案を頂きました。

また、分館で児童担当を一人で行っている方は、コロナ禍で図書館運営に不安のなか、かつての受講者の仲間や講師の方と情報交換を行い、前を向くことができたと書いてくださいました。

今後、不定期ですが第2回、第3回・・・と連載する予定です。2012年以前に受講された方、受講はしていないけれど、という方のご意見も大歓迎です。

日本図書館協会児童青少年委員会担当にお知らせください。

第33回（2013年）受講生

中野陽子（鎌倉市深沢図書館、日本図書館協会認定司書第1125号）

①受講の思い出

勤務している自治体では、私の受講まで「児童図書館員養成専門講座」受講実績が無かったのですが、いくつか偶然が重なり、幸運にも仕事として受講することができました。その後も数名が業務の一環で受講させていただいています。

長期間に渡り、タイトな日程で課題提出があるこの専門講座を修了できたことは、サービスの充実に向けて新しいことに挑戦していく契機ともなりました。

どの講師の方のお話も勤務館の同僚と折に触れて共有していますが、自分が最も興味のある科学読み物について担当された塚原博講師のお話が強く印象に残っています。科学の不思議さについてユニークな切り口で制作された本の紹介や、科学読み物は、読んだ後も対象の事物に興味を持ち、自分で確かめる等の行動を起こすことにつながるものであってほしいとお話、ご自身が科学の本を面白がり、探求されていた姿勢が忘れられません。現在、学校教育では探求学習が課題になっていますが、その目的の核となる考え方を学ぶことができたと思います。

一緒に受講した方々は児童サービスの技術と業務遂行能力の高い方ばかりで、刺激されました。現在も業務で迷う時、直接・間接に相談させていただいています。その自治体の児童サービスがニュース等で紹介されているのを見かけると同期の方の顔が思い浮かんできます。

②現在の仕事

2019年度より、勤務自治体の児童奉仕委員会及び子ども読書活動推進計画の担当となりました。学校、学童、幼稚園、保育園、保健師、青少年指導員と意見・情報交換の中で、子どもたちのサポートのために一緒に考えようと前向きに考えてくれる方々に出会えました。同時に、それぞれの現場や組織とどう相談していくか、予算や人の動き方など、壁や課題が今やっと具体的に見えてきたところです。

③児童図書館員養成専門講座のメニュー

図書館では、近年滞在型サービスがクローズアップされ、集客が評価の対象となる傾向も顕著でした。けれども、“図書館には来ない”、“図書館に来られない”子どもたちが全体割合から見れば多く、子どもたちの経済的格差拡大の社会状況下、そして今、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下では、どう子どもたちのもとまで児童サービスを届けるかが重要です。“子どもがいる場所”“とよい協力関係をつくるのが児童サービス提供にとって大切です。図書館サービスを届ける多くの事例（アウトリーチ、WEB利用サービス等）を学べるメニューが講座の中にあつたらいいと思います。

です。

小さい子どもがいて一番心配なのは、すぐに熱を出すことです。案の定、前期に一回、後期に一回、わが子が発熱し、保育園から呼び出しを受けました。一回目は行ったら元気だったので、そのまま高速を使ってトンボ返りして、子連れで受講してそのまま懇親会まで参加してしまいました。これもコロナ禍ではできないことですね。子連れ受講をお許しいただいた川上先生、島先生には本当に感謝しています。後期は依田先生の心遣いをありがたく受け止め午前だけ受講して帰宅、後日追加レポートを提出しました。

事前課題は大変でしたが、仕事をしながら取り組むのか、子どもの昼寝中に取り組むのか、どちらもすき間時間を使うしかないのも、それほど大差ないように感じました。前の育休中は本をほとんど読みませんでしたが、今回は50冊以上読みました。必要があれば読書の時間は作れることを実感しました。

この大変な事前課題に同時に取り組み、机を並べて学んだ同期の皆さんと出会えたのも大きな収穫です。同期が16人いたので、16通りの考え方に会うことができ、視野が広がりました。16人分のブックトークやストーリーテリングの実演は、とても楽しくぜいたくな時間でした。科学あそびとレファレンスは私の苦手分野だったので、一人一人の発表を聴いているうちに、こうやって向き合えばいいんだ、次はこんな風にやってみたい、と前向きになっている自分に気付きました。

私にとって、児童図書館員養成専門講座は貴重な体験でした。事前課題に取り組んでいた時間も含めて、こんなに図書館のことを考えたことはありませんでした。これからもたくさんの図書館員に受講してもらいたいですし、職場の後輩たちにも紹介していきたいです。まだ新型コロナウイルスの拡大が続くようなら、オンラインでの講座開催も検討していただきたいと思います。今まで受講を躊躇していた、育児や介護中の方、遠方に住んでいる方や長期間職場を離れられない方など、多数の意欲ある図書館員に門戸を開くことができます。ただ、直接会うことでしか得られないものが数多くあることも事実です。当該講座とは別の代替講座として考える方がよいのかもしれない。

現在は復職して、児童書の担当をしています。選書や書評、図書館の魅せ方など、講座で教わったことを少しずつ現場に応用して行きたいと意気込んでいます。新型コロナウイルス感染防止を考えると、すぐにできないこともあります。焦らずに、来館する子どもたちを観察しながら、準備を進めているところです。

News Letter no.24 ニューズ・レター

編集：鹿野詩乃、高橋樹一郎

発行者：島 弘

発行：日本図書館協会児童青少年委員会

日本図書館協会児童青少年委員会事務局 川下美佐子

Tel.03-3523-0816/Fax.03-3523-0841

E-mail : jidou@jla.or.jp